

大阪 外部環境難を背景に先安見通し緩まず

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況はなおも弱含み。電炉入荷は安定した水準を保ち、新規輸出商談も需給双方の希望価格に大きな乖離が生じていることにより、先安見通しは広がったままだ。16日時点の地区H2実勢値は5万2500～5万3500円見当で推移している。

地区内では先週に電炉値下げが一巡したが、今週に入って値動きは見られない。電炉筋の中にはいまだ他社と下げ幅を合わせておらず、入荷優先姿勢を保つ動きにある。価格差が残ることを理由に、市中からは他地区への出荷が引き続き行われているほか、発生の落

ち込みも目立つ展開にあるため、「荷余り感があるわけでもなく、東鉄次第には変わらない」(商社)と指摘する。

だが、電炉入荷は計画前後の水準を維持しており、3連休に向けて、需給不安が生じている様子にない。来週からは合同製鉄が夏季炉休入りとなるほか、輸出商談でのアジアミルの希望価格は地区相場を下回っていることで、「需要、海外とも冴えない方向にあり、警戒を緩めにくい」(ヤード業者筋)と慎重な声が聞かれる。

伊彩金属、オリジナルを製作 SNS活用し新規顧客開拓を強化

(大阪) 金属スクラップディーラーの伊彩金属(本社=大阪府八尾市、西原宏典社長)はこのほど、オリジナルの「だるまステッカー」を製作し、インスタグラムを中心としたSNSの活用による新規顧客の開拓を強化している。



製作したオリジナルステッカー

今回製作したステッカーは、スマートフォンの背面に収まるサイズで、目標達成時に目を塗る風習にちなみ、だるまをモチーフに採用。同社では現在、インス

タグラムをフォローし、スクラップを持ち込んだ新規顧客にステッカーを配布するキャンペーンを実施中だ。

このほかでは、同社は創業初期からGoogleマップの口コミによる情報発信やSNSの活用に取り組んでおり、ネット検索やホームページなどからの問い合わせや持ち込みも相次いでいるという。今後について西原社長は「親しみやすいイメージを持ってもらうため、情報発信を積極的に行っていききたい。今後も従業員と意見交換しながら、より多くの方々に弊社のことを知ってもらえるきっかけを作っていきたい」と話す。

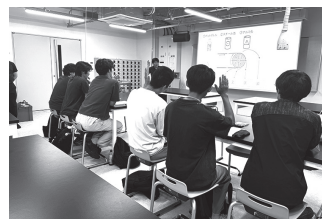
近畿工業、大学でインターンシップ授業実施 破碎・選別技術を解説

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市、和田知樹社長)はこのほど、兵庫県立大学姫路工学キャンパスにて、工学部機械・材料工学科の3年生7名を対象にインターンシップ授業を行った。

今回の授業は、同大学・河南治教授の「地元での就職を希望する学生に向けて、優れた技術を持つ企業について知る機会を提供したい」という思いをきっかけに実現。同社からは、兵庫県立大学の卒業生である技術職社員2名が講師を務め、資源や廃棄物のリサイク

ルに不可欠な技術を伝えるため教壇に立った。

授業は6月11日と18日の2週にわたり実施され、同社が強みとする「破碎」と「選別」の技術について動画や写真を交え



インターンシップ授業の様子

て解説した。1回目は「破碎の世界を体験しよう」と題し、破碎機の基本的な原理やプラントでの活用事例を講義。さらに、摩耗・損傷したカッターなどの部品を持ち込み、大学で学ぶ材料工学の知識と比較しながら摩耗の原因を検証する体験ワークを展開した。2回目は「選別の世界を体験しよう」と題し、簡易的なアルミ選別機などの実機サンプルを用いて、学生らは材質や粒度の違いによる選別のメカニズムを学んだ。

さらに、大学で学ぶ力学や材料の知識が、実際の製品開発や設計、現場での業務にどう直結しているか、環境分野で働くやりがいと共に解説。学生らにとって、日ごろの学びと社会とのつながりを実感する有意義な機会となった。今後について同社は「今回のような産学連携を推進し、技術者教育への貢献や次世代の人材育成、採用強化につなげていきたい」とコメントしている。

サヤミツ産業 有限会社

兵庫県姫路市白浜町宇佐崎南2丁目29 TEL (079) 247-2510
FAX (079) 247-2511

ステンレス・製鋼原料・鋳造原料・アルミ・その他各種スクラップ

SAYAMITSU Inc.